



2024年 2・3月合併号

資料手入期のため休館します

3月13日（水曜日）から3月21日（木曜日）まで

姫路市内の全図書館は、蔵書点検のため休館いたします。期間中は「Myライブラリ」のパスワードを登録されている方のみ、図書館ホームページからの予約が可能です。電話でのご予約・お問い合わせはできません。

休館中の本の返却は、各館の返却ポストをご利用ください。

利用者の皆さまには、大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。



電子図書館は利用できます！

図書館が休館中でも電子図書館を利用いただくことができます。

電子図書館のトップページからID（貸出券の番号）とパスワード（「Myライブラリ」のパスワードと同じ）でログインしてください。

（*有効なIDとパスワードがあるか、休館の前に確認しておくことをおすすめします。）

読みたいコンテンツを選んで「借りる」または「読む」をクリックしてください。

人気の本は「予約する」（予約数●人）になっています。

3点まで借りられます。期間は2週間です。

☆☆ 姫路市電子図書館 <https://web.d-library.jp/himeji/>



2月 3月 図書館カレンダー（が休館日）



2月 February 如月						
城内図書館						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3月 March 弥生						
城内図書館						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

※ひがし分館は令和6年3月末（予定）まで休館

レファレンス協同データベースをご存知ですか？

「レファレンス協同データベース」略して「レファ協」とよく言われますが、これは、国立国会図書館が全国の公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースです。

インターネットで誰でも利用できるデータベースですが、一件一件のデータには公開レベル（一般公開、参加館公開、自館（データ登録館）のみ参照）が設定されています。

登録されているデータは下記の4種類です。



レファレンス事例

参加している図書館で行われたレファレンスサービス（質問回答サービス）の記録です。利用者の方々からの質問に、どのように回答したのかが記載されています。回答そのものだけでなく、回答を提供するまでの調査内容（回答プロセス）が記載されているのが特徴です。

調べ方マニュアル

特定のテーマやトピックに関する情報源の調べ方です。何かを調べたい時にまず押さえるべき基本的な情報源が紹介されています。

特別コレクション

個人文庫や貴重書等、参加館が所蔵する特殊なコレクションに関する情報です。兵庫県立図書館のフェニックス・ライブラリー等が登録されています。

参加館プロフィール

レファ協に参加している各参加館の情報です。



姫路市立図書館はこの「レファ協」にレファレンス事例を約250件登録していて、その内130件は一般公開、すなわち誰でも見ることができます。例えば「赤穂浪士の討ち入りと桜田門外の変と二・二六事件について、ドラマや映画では事件の日に雪が降っているイメージだが、本当に降ったのか。」という事例や、「どんぐりの中にいる虫について。かわいいので飼ってみたい。（小学校1年生の質問）」等、ちょっとおもしろい事例もあります。他の全国の図書館からの興味深い事例もたくさんありますので、ぜひ一度のぞいてみてください。

（梶原）

図書案内

『水車小屋のネネ』

津村 記久子/著 毎日新聞出版 (F-ツ)

18歳の理佐と8歳の律は、親の理不尽な仕打ちから逃れるため家を出て、ある田舎町にやってきた。理佐が働くことになったそば屋には水車小屋があって、そこには人の言葉を真似する鳥(ヨウム)のネネがいた。そば屋の夫婦、ネネの世話をしている画家のおばあさん、婦人会の人たち、妹の担任教師など多くの人にさりげなく見守られたり助けられたりするうち、二人はその地になじんで暮らし、月日を重ねていく。

本書は姉妹と彼女たちをとりまく人々の生活を、1981年から2021年まで10年おきに語る。時間の経過とともにそれぞれの人生は変化し、姉妹が世話になった人たちは老いや死を迎え、姉妹は人を支える役割を果たしはじめる。水車小屋の番をすることになった青年や水車小屋に突然現れた中学生、彼らは姉妹や人なつこくて賢くひょうきんなネネと出会い、人々の緩やかなかわりのなかで、自分の人生を回復させていく。

ほどよい距離感で親切を分かち合う人のつながりの心地よさと尊さが感じられる小説です。谷崎潤一郎賞受賞作。

(村上)

今月の子どもの本

『落語少年サダキチ』

田中 啓文/作 朝倉世界一/画 福音館書店 (Y-タ)

清海忠志は、顔も勉強も運動もすべてぱっとしない小学5年生。頼まれると「いやだ」と言えない性格をしています。親友の真一に、クラスのお楽しみ会にコンビを組んで漫才をやろうと誘われた時も、当日になって真一が、「漫才、パスさせてくれ」と言い出した時も「いやだ」とは言えませんでした。クラス委員からは、プログラムに穴をあけてもらっては困ると責められ、とうとう「一人でなんとかする。落語をやる」と宣言してしまいます。

実は本番の2日前のこと、帰り道で不良少年に絡まれていたおじいさんを忠志が助けたところ、おじいさんがお礼にと落語を聞かせてくれました。その落語がとてもおもしろくて、忠志は家に帰ってからも、レコードで何度も繰り返して聞いていたので、なんとかなると思ってしまったのです。

うろ覚えの落語を必死に思い出しながら演じたところ、大爆笑の拍手喝采! その後、勝手にマネージャーに就任した真一に、何度も落語をやらされる羽目になる、落語少年サダキチの誕生です。

現在5巻まで出ています。小学3年生から楽しめます。

(青田)